

山形市スポーツ推進計画2028 概要版（令和5年2月策定）

I 策定の概要について

本市では、「山形市スポーツ推進計画」（計画期間平成30年度～令和4年度）を策定し、スポーツの推進に取り組んできました。

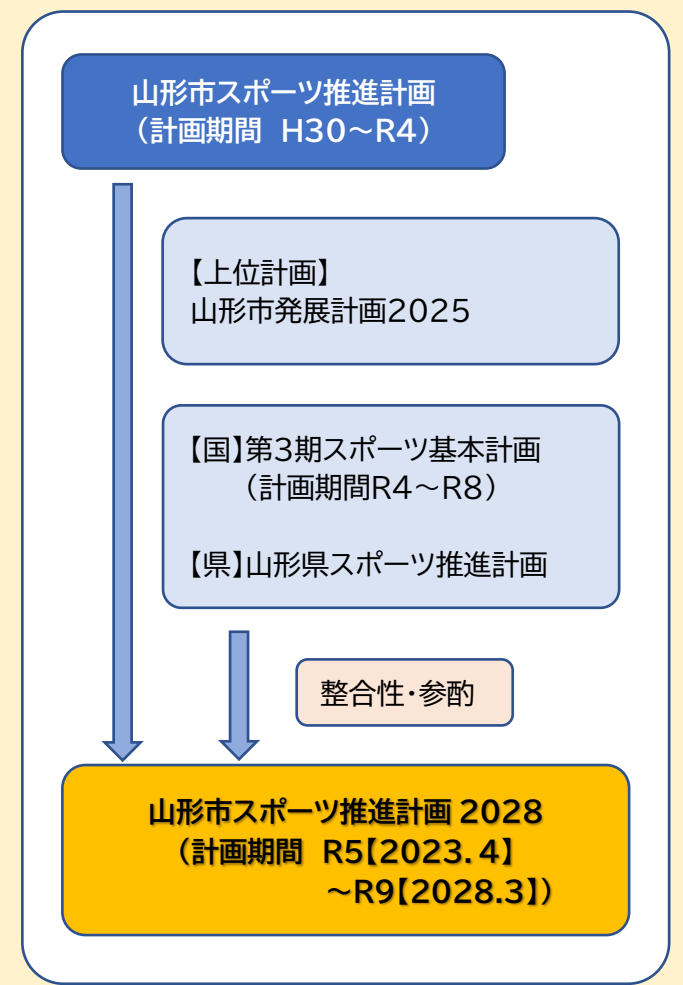
また、令和2年3月に「山形市発展計画2025」を策定し（令和3年2月変更）、「健康医療先進都市」の確立に向けて、より一層のスポーツ推進が求められています。

このことから、引き続きスポーツの推進等を図るため、令和4年度で計画期間が終了する「山形市スポーツ推進計画」を「山形市スポーツ推進計画 2028」として見直し、山形市のスポーツ推進の基本方針と具体的施策を示す新たな計画を策定することとします。

その他の動向

- ・「スポーツ基本法」（平成23年6月）
- ・「スポーツ基本計画」

- （第1期 平成24年3月、第2期 平成29年3月、第3期 令和4年3月）
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（令和3年）



II 前計画の評価について

【成果指標について】

- 「2020年東京大会事前合宿回数」
 - ・直前の合宿は中止となりましたが、平成30年度～令和元年度に、タイ、台湾、サモアのナショナルチームが合宿を実施しました。
- 「新たに整備するスポーツ施設数」
 - ・山形市グラウンド・ゴルフ場（認定コース）と地域運動広場（飯塚、鈴川、渋江）を整備しました。
 - ・広域利用に資するあかねヶ丘陸上競技場（山形県からの貸与）を改修しました。
 - ・西部工業団地公園再編事業に合わせてソフトボール場（全国大会開催を視野に入れた）3面確保可能なスポーツ施設整備を進めています。
- 「山形市民スポーツフェスタ参加者数」、「山形シティマラソン大会及び関連イベント参加者数」、「体育施設の利用者数」
 - ・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴うスポーツ大会やイベント、スポーツ教室中止、市民の外出活動の制限・自粛の影響を受けました。
 - ・新型コロナウイルス感染症感染拡大前となる令和元年度（2019年度）時には、目標値を超えており、コロナウイルス収束により一定の効果が見込まれます。
- 「地区スポーツ、レクリエーション行事への参加人数」、「スポーツ少年団加入率」
 - ・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴うスポーツ大会やイベント、スポーツ教室中止、市民の外出活動の制限・自粛の影響を受けました。
 - ・新型コロナウイルス感染症感染拡大前となる令和元年度（2019年度）時には、増加傾向であり、コロナウイルス収束により一定の効果が見込まれます。
- 「スポーツ実施率」
 - ・目標値には達していないものの、新型コロナウイルス感染症感染拡大後もやや増加傾向にあり、今後の動向を注視していく必要があります。
- 「市民の全国大会、国際大会出場状況」、「東北・北日本・東日本・全国・国際大会開催数」
 - ・横ばい又は減少の傾向にあり、今後、改善に向けた取り組みが必要です。

前計画成果指標				令和4年度 (2022年度)	令和元年度 (2019年度) 【コロナ禍前】	令和3年度 (2021年度) 参 考
基本方針	指 標	前計画策定時の値		目 標 値		
基本方針1 誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり	スポーツ実施率（成人週1回以上）	53.1%	2016年	65.0%	※4年に1回の実施のため	53.8%
	山形市民スポーツフェスタ参加者数	5,751人	2017年	6,000人	○	7,252人 ※中止のため前年度数値
	地区スポーツ、レクリエーション行事への参加人数	27,701人	2016年	30,000人	▲	28,757人
基本方針2 アスリートの活躍を支える競技スポーツの推進	市民の全国大会、国際大会出場状況（出場奨励費交付実績）	665人	2016年	700人	▲	656人
	スポーツ少年団加入率（小学生）	18.1%	2017年	19.0%	▲	18.6%
基本方針3 スポーツを通じた交流促進による明るく活気あるまちづくり	山形シティマラソン大会及び関連イベント参加者数	5,531人	2017年	5,800人	○	5,953人
	東北・北日本・東日本・全国・国際大会開催数（補助金・負担金交付実績）	23件	2017年	25件	▲	15件
	2020年東京大会事前合宿回数（2018年度～2022年度累計）	—	—	3回	○	4回
基本方針4 市民のスポーツを支える環境整備	新たに整備するスポーツ施設数（2018年度～2022年度累計）	—	—	3施設	○	4施設
	体育施設の利用者数	655,845人	2016年	700,000人	○	719,542人

凡例 ○ 目標達成 ▲ 目標値は達成していないが増加傾向 ▼ 目標値は達成していない横ばい又は減少傾向

※前計画の最終評価は令和4年度末の実績で行うため、改めて評価を行います。

III 基本理念・基本方針について

1 スポーツ都市宣言（昭和63年12月21日）

スポーツは、健康な心と体をつくり、
明るい都市を築くため大きな役割を果たします。

また、スポーツを愛する心は、
世界の平和と人びとの友情のいしずえです。

私たち山形市民は、積極的にスポーツに親しみ、
友情の輪を広げ、活気あるまちづくりを進めることを誓います。

ここに、山形市は、スポーツ都市の宣言をします。

2 基本理念及び基本方針

- ・本計画では、「スポーツ都市宣言」を継続していくため、前計画「山形市スポーツ推進計画」の基本理念を継続します。
- ・基本理念の実現を図るために、「誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり」、「市民のスポーツを支える環境整備」の2つの基本方針を継続します。
- ・郷土愛の醸成、交流人口の拡大や地域経済の活性化と地域コミュニティの活性化を一体的に図るため、前計画の基本方針、「アスリートの活躍を支える競技スポーツの推進」と「スポーツを通じた交流促進による明るく活気あるまちづくり」を統合し、「スポーツを通じた活気あるまちづくり」として継続します。

基本理念

「市民のスポーツ参画による健康で活気あるまちづくり」

基本方針

1 誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり

年齢、性別、障がいの有無に関わらず、多くの市民に各ライフステージに応じた多様なスポーツの「する」「みる」「ささえる」機会の提供とともに国の新たな視点である「つくる/はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」を踏まえ、スポーツ参画人口を拡大し、市民が健康でいきいきと暮らせるまちづくりを進めます。

2 スポーツを通じた活気あるまちづくり

スポーツ指導者養成やジュニア選手の育成を通して競技スポーツの底辺を拡大するとともに、各種大会・スポーツイベントの開催やスポーツツーリズムの推進、プロスポーツとの連携などを通じた、スポーツの力によって、郷土愛の醸成、交流人口の拡大や地域経済及び地域コミュニティの活性化を図り、アスリートが輝ける持続的発展が可能な希望あるまちづくりを進めます。

3 市民のスポーツを支える環境整備

市民が気軽にスポーツに親しみながら健康を増進するとともに、アスリートの競技力を向上させ、安心安全にスポーツ施設を利用できる機会を確保するため、ニーズに応じた施設の整備や検討を行います。

IV 基本施策について

基本施策ごとに今後5年間(令和5年度【2023年4月】～令和9年度【2028年3月】)の主な取組を示します。

基本方針1 誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり 1 生涯にわたりスポーツに親しむ機会の充実 【課題・背景】 ・少子高齢化によるスポーツ少年団や部活動の団員・部員等の減少 ・競技種目の多様化 ・障がい者スポーツへの理解・普及 【今後の方向性】 ・健康医療先進都市実現に向けたさらなるスポーツの機会充実 ・市民が生涯にわたりスポーツに親しむ機会提供 ・障がい者が気軽にスポーツに取組める環境整備や機会の提供による共生社会の実現 【主な取組】 ・多様で身近なスポーツ参加の機会・環境の充実【継続】 (各種スポーツ教室の開催、健康ポイント事業SUKSKとの連携、地区体育振興会等への支援、スポーツ推進委員協議会と連携した各種事業の実施、ウォーキング・サイクリングモデルコース等の設定・充実、健康増進を図る介護予防運動等の設定・充実、学校体育施設の有効活用 等) ・レクリエーションスポーツ等の育成【継続】 ・総合型地域スポーツクラブの活性化【継続】 ・スポーツ少年団活動の活性化【継続】 ・市民が参加する大会・イベントの開催【継続】(「山形まるごとマラソン」の開催、「山形市民スポーツフェスタ」の開催) ・障がい者スポーツの普及、参加促進【継続】 体験会等、市長褒賞制度、施設のバリアフリー化及び使用料減免等 2 郷土愛の醸成や定住につなげる若者のスポーツ参加の促進 【課題・背景】 ・アーバンスポーツ等がオリンピック競技採用 ・国の「第3期スポーツ基本計画」に「多様な主体におけるスポーツの機会創出」の具体策として記載 【今後の方向性】 ・アーバンスポーツ等を若者の郷土愛の醸成や定住につなげる暮らしの一つの要素として位置づけ ・冬季エクスゲームズ等の誘致・開催の可能性について調査研究 【主な取組】 ・「(仮称)アーバンスポーツ普及方針」策定と推進【新規】 ・冬季エクスゲームズ等の調査研究【新規】 3 ウィンタースポーツへの参加促進 【課題・背景】 ・ゲレンデに訪れる市民が減少 ・蔵王ジャンプ台の多様な活用を模索 【今後の方向性】 ・関心を高める、参加のきっかけを提供 ・ウィンタースポーツの裾野拡大 【主な取組】 ・新たなウィンタースポーツのイベントの開催【新規】 ・ウィンタースポーツ教室の開催【継続】 ・小学校のスキー教室への支援【継続】 ・蔵王ジャンプ台の観光活用と合宿誘致【拡充】 ・「女子スキージャンプワールドカップ蔵王大会」の開催【継続】 4 中学校運動部活動の地域移行 【課題・背景】 ・学校での運動部活動の維持が困難 ・国の「第3期スポーツ基本計画」において令和7年度を目標にまずは休日の部活動を地域に移行することが記載 【今後の方向性】 ・行政・学校と地域が連携し、平日の部活動の地域移行についても視野に入れながら、休日の部活動の段階的な地域移行	【主な取組】 ・検討協議会設置による関係機関との協議【新規】 ・指導者や会場のマッチング等を行うコーディネーターの設置【新規】 ・モデル事業の実施【新規】 ・学校体育施設の有効活用(再掲)【継続】 基本方針2 スポーツを通じた活気あるまちづくり 1 スポーツの力による地域活性化と郷土愛の醸成 1-1 競技スポーツの活性化(アスリートの育成と活躍の支援) 【課題・背景】 ・トップアスリート選手育成・強化策の推進が必要 ・「市民の全国大会、国際大会出場状況」が減少 【今後の方向性】 ・トップアスリート育成への支援 ・次世代育成への練習環境の整備検討(民間活力の活用を含む) 【主な取組】 ・国民スポーツ大会誘致検討と選手強化【新規】 ・山形市体育・スポーツ総合推進本部や山形市スポーツ協会等との連携によるジュニア期を含む選手強化【継続】 ・サマースキージャンプ山形蔵王大会を通じた次世代育成【継続】 ・各種大会等出場に対する支援【継続】 ・市長褒賞制度による顕彰【継続】 1-2 スポーツによる交流人口・関係人口の増加と地域コミュニティの醸成 【課題・背景】 ・各種大会の開催などによる交流人口等の拡大や地域活性化 【今後の方向性】 ・スポーツイベントやスポーツビジネスと連携した地域経済と地域コミュニティの活性化 【主な取組】 ・国民スポーツ大会の山形誘致に向けた検討【新規】 ・大会の開催(女子スキージャンプワールドカップ蔵王大会、サマースキージャンプ山形蔵王大会、山形まるごとマラソン)【継続】 ・国際・全国レベルの大会等開催に対する支援【継続】 ・蔵王ジャンプ台の観光活用と合宿誘致(再掲)【拡充】 ・大会を活かしたスポーツツーリズムの推進【継続】 ・オリンピック・パラリンピックレガシーとしての国際交流の継続【継続】 ・地区体育振興会等への支援(再掲)【継続】 2 プロスポーツとの連携の推進 【課題・背景】 ・本市に関係するプロスポーツ3団体との連携による郷土愛の醸成 ・観戦等による交流人口等の増加 【今後の方向性】 ・観戦や交流の機会拡充 ・地元プロスポーツ団体との連携及び支援 【主な取組】 ・体験教室・動画配信やイベント等による地元プロスポーツ団体との連携【継続】 ・試合開催時の使用料減免や募金活動等による地元プロスポーツ団体の活動を支えるための支援【継続】 ・「楽天イーグルス山形市支援協議会」の設立(地域振興、交流人口の増加、野球及びスポーツの推進)【新規】 ・「楽天イーグルス山形市支援協議会」による情報提供、各種イベント等賑わい創出、公式戦時のボランティア活動等の実施【新規】 ・部活動地域移行に向けたプロスポーツ団体との連携【新規】	基本方針3 市民のスポーツを支える環境整備 1 スポーツ施設の新設・拡充 【課題・背景】 ・若年層の減少、若年層の競技の多様化(アーバンスポーツ等スポーツビジネス活性化、オリンピック新種目増) ・競技あたりの若年層人口減と競技者の広範囲化(薄く広く競技者が散らばっていく傾向) ・高齢者の増加 ・運動負荷の少ない競技の高齢者への普及 ・スポーツによる高齢者のコミュニケーションの活性化 【今後の方向性】 ・若年層のニーズに応じた施設や移動手段の充実 ・高齢層が健康寿命延伸のため、ウォーキング、グラウンド・ゴルフ、水泳などに気軽に親しむ環境の整備(民間活力の活用を含む) 【主な取組】 ・「(仮称)アーバンスポーツ普及方針」策定と推進(再掲)【新規】 ・部活動の地域移行(再掲)【新規】 ・R3策定の「山形市地域公共交通計画」推進に合わせた取組の推進【新規】 ・ウォーキングコースの設定・充実(再掲)【継続】 ・地域と連携し、民間活力の活用も図りながら、グラウンド・ゴルフ場の整備検討【新規】 ・公共・民間施設全体の需給状況を踏まえた環境整備【継続】 ・西部工業団地公園再編に伴うスポーツ施設整備【新規】 ・ニュータウンの中核施設の検討【継続】 2 スポーツ施設の維持管理・長寿命化 【今後の方向性】 ・既存施設を末永く活用するため、計画的な改修 ・競技ルール変更や設備備品の老朽化、デジタル活用に対応し、良好なスポーツ環境を保持 ・施設のライフサイクルコスト最小化と受益者負担の最適化 ・市民ニーズが高いものの廃止をせざるを得ない場合の代替機能確保 【主な取組】 ・屋外スケート場整備についてのあり方検討【新規】 ・旧双葉小学校体育館の一般活用【新規】 ・デジタルを活用したスポーツ環境の向上【継続】 ・西部工業団地公園再編に伴うスポーツ施設整備(再掲)【新規】 ・既存スポーツ施設の多目的利用の検討【新規】 ・「山形市スポーツ施設長寿命化計画」の見直しと推進【継続】 ・スポーツ施設のバリアフリー化 (再掲)【継続】 3 広域利用施設の整備促進 【今後の方向性】 ・県内唯一または近隣自治体住民の広域利用が相当見込まれる施設は、整備のあり方、役割分担や費用負担のあり方などについて山形県と協議 【主な取組】 ・山形県体育館・山形県武道館の整備促進【継続】 ・スケート場整備についての検討【新規】 ・屋内長水路プールの整備促進【継続】 ・馬術競技場の整備促進【新規】 4 国民スポーツ大会に向けた環境整備 【主な取組】 ・令和17年の第89回大会から3巡目となる予定の国民スポーツ大会について、誘致に向けた活動を県や関係団体と検討【新規】 ・山形市での実施競技とその施設整備のあり方を検討【新規】
---	---	--

V 成果目標について

1 成果目標

3つの基本方針に基づく施策の実施により達成する目標を定めます。

基本方針1

成果指標	コロナ禍前 令和元年度 (2019 年度)	現在値 令和 3 年度 (2021 年度)	目標値 令和 9 年度 (2027 年度)
スポーツ実施率 (成人週1回以上)	— ※4 年に一度	53.8%	65.0%
山形市民スポーツフェスタ参加者数	7,252 人	928 人	7,500 人
地区スポーツ、レクリエーション行事への参加者数	28,757 人	11,360 人	30,000 人

基本方針2

成果指標	コロナ禍前 令和元年度 (2019 年度)	現在値 令和 3 年度 (2021 年度)	目標値 令和 9 年度 (2027 年度)
国際・全国大会出場者数	656 人	342人	700人
山形まるごとマラソン及び関連イベント参加者数	5,953 人	1,209 人	6,000 人
国際・全国・東北大会等開催数	15件	12 件	25 件

基本方針3

成果指標	コロナ禍前 令和元年度 (2019 年度)	現在値 令和 3 年度 (2021 年度)	目標値 令和 9 年度 (2027 年度)
スポーツ施設利用者数	719,542 人	508,636 人	730,000 人
スポーツ施設の新設等	—	—	3 施設

2 スポーツ推進計画の推進

1 関係機関との連携

・山形市スポーツ協会及び山形市体育・スポーツ総合推進本部、山形スポーツ少年団等の各スポーツ団体と、それぞれの役割を果たしながら、互いに連携し事業を進めることが求められます。

2 計画の進行管理

・本計画は、PDCA サイクル(Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Action(改善))の継続的改善手法により進行管理します。

・成果目標の達成状況を定期的に確認するとともに、ニーズの把握に努めつつ、スポーツ推進審議会に計画の進捗状況の報告を行います。